



## 平成26年度の自然学校を振り返って Part 3

前回の31号では、帯同救急員からのアンケート結果をまとめて平成26年度の自然学校を振り返りましたが、今回は、受診発生件数が増えている外科の傷病発生状況をまとめましたので、来年度の自然学校に活かしてください。(それぞれの表における割合の合計は、小数第2位を四捨五入したため100にならない場合があります)

### 1 傷病内容の内訳

右図の「医務室処置の件数」内訳では、「打撲」と「切創・挫創・刺創」が多く、約半数を占めています。昨年度と比べ増加したのは「打撲」(20.2%→29.4%)「虫さされ」(6.1%→8.9%)「目のけが」(2.5%→5.0%)「歯のけが」(0%→1.1%)でした。「虫さされ」では、マダニによる健康被害が報道で取り上げられ、その対応がより慎重になり、件数が増えたと考えられます。「虫さされ」の状況を確認すると、半そで・半ズボンで野外の活動をしているケースも見られました。被害に遭わないためにも、また、ケガ予防のためにも肌の露出を少なくする服装の工夫が必要になります。

昨年度と比べて減少したのが、「熱傷・火傷」(16.7%→6.1%)「頭のけが」(15.7%→13.3%)でした。指導者の安全指導が徹底してきたことや事前のOR等で繰り返し指導してきた成果だと考えられます。

No.	傷病名	件数	割合(%)
1	打撲	53	29.4
2	切創・挫創・刺創	34	18.9
3	頭のけが(打撲含む)	24	13.3
4	捻挫・突き指	19	10.6
5	虫さされ	16	8.9
6	熱傷・火傷	11	6.1
7	目のけが	9	5.0
8	発疹(草木等)	5	2.8
9	骨折	3	1.7
10	歯のけが	2	1.1
11	耳鼻のけが	1	0.6
12	外傷による鼻出血	0	0.0
13	その他	3	1.7
合計		180	100.0

※No.13その他は水疱(2)、筋肉痛(1)

### 2 受診内容の内訳

No.	傷病名	件数	割合(%)
1	打撲	7	24.2
2	虫さされ	7	24.2
3	切創・挫創・刺創	3	10.3
4	捻挫・突き指	3	10.3
5	骨折	3	10.3
6	頭のけが(打撲含む)	3	10.3
7	歯のけが	2	6.9
8	熱傷・火傷	1	3.5
合計		29	100.0

左図の「受診内容」内訳のとおり、骨折と診断された件数は昨年と同様に3件でした。救急車で搬送された場合もありましたが、動揺している子どもたちへのアフターケアは、管理職の指示のもと指導者の意思統一が図られ、スムーズに行われていました。

昨年度と比べ、「打撲」「虫さされ」による受診が医務室処置と同様に増加しています。「虫さされ」による受診の場合、刺された虫が特定できず痛みや発赤があるため、医師の診察を受けるケースがほとんどでした。

### 3 月・日別発生件数

- 6月 … 「切創・挫創・刺創」10件 「虫さされ」8件 「打撲」7件
- 9月 … 「打撲」15件 「切創・挫創・刺創」10件 「頭のけが」8件
- 10月 … 「打撲」12件 「捻挫・突き指」6件 「頭のけが」「目のけが」4件

生活習慣も落ち着いた2学期は活動範囲も広がることから、けがによる医療機関の受診が多くなっていると考えられます。児童の実態をみながらの健康管理が大切になってきます。外科的な訴えでは、医務室処置は4日目に多く、次いで3日目に多かったです。受診も中日の3日目、4日目が多かったです。自然学校後半は、疲れがたまっていることや施設に慣れ、緊張感が緩むこともあります。児童の疲労度に合わせたプログラム編成や安全面に配慮した活動形態等の工夫が重要です。

No.	活動名	件数	割合(%)	受診件数
1	隠れ家づくり	47	26.1	6
2	野外炊事	28	15.6	3
3	自由時間	24	13.3	6
4	クラフト	15	8.3	2
5	移動中	11	6.1	0
6	キャンプファイヤー	8	3.3	2
7	登山	8	3.3	0
8	食事時間	3	1.7	1
9	草木染め	2	1.1	1
10	自然観察(星空観察含む)	2	1.1	0
11	オリエンテーリング	2	1.1	1
12	スタンプ練習	2	1.1	0
13	サイクリング	2	1.1	1
14	カッター	2	1.1	1
15	交流会・レクリエーション	1	0.6	0
16	テント泊	1	0.6	0
17	朝の集い	1	0.6	0
18	入浴時間	1	0.6	0
19	不明	14	7.8	5
20	その他	10	5.6	0
合計		180	100.0	29

#### 5 場所別けがの発生状況

発生件数では、「きつね入口横フィールド」「大屋根広場」が多く、そこで実施している隠れ家づくりでのけがの詳細は、以下のとおりです。

○きつね入口横フィールド 28件発生(内 受診は5件)

19校中12校に発生→1校あたり1.47件の発生あり。

○大屋根広場 19件発生(内 受診は1件) / 全体27件

12校中10校に発生→1校あたり1.58件の発生あり。

<発生の状況>

○手腕・足指打撲→台車の車輪が当たる。丸太が当たる。丸太を運んでいて落とす。立てかけた丸太が倒れる。シーソーで挟む。滑り台から落ちる。

○頭部のけが→製作中または解体中に落ちてきた丸太が当たる。友人の運んでいた丸太が当たる。ブランコが急に倒れ丸太で打撲する。ブランコから落ちてイスで後頭部を打つ。シーソーから転落する。

○下肢擦過傷→フィールド斜面を走っていて転ぶ。 ○指挫創→ブランコのロープで指を挟む。脚立で指を挟む。 ○腰部打撲→ロープをひっぱっていてロープが外れ転ぶ。 ○足首捻挫→ブランコからの着地で捻る。 ○骨折→完成した隠れ家から後ろ向きに転落する。

上記のけがの様子からも、丸太の扱い方(運び方や置き方)、完成した隠れ家の安全性の確認と遊び方(特にブランコ遊びは要注意)、活動場所の特性による安全管理にポイントをおき、指導者に事例を含めながら具体的に伝えて安全指導の徹底を図り、少しでもけがを減らしたいと考えています。

#### 編集後記

野外での活動では、多少のけがはどうしても起こってしまうものですが、その原因(人的、環境的)を把握することで、けがを最小限に抑えることが可能となります。特に、人気のある「隠れ家づくり」では、細心の注意を払う必要があると考えています。(文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)

#### 4 活動別けがの発生状況

左図のとおり、今年度、「野外炊事」によるけがの発生はやや抑えられましたが、特に「隠れ家づくり」によるけがの発生が増えました。発生原因を分析すると同時に、隠れ家づくりを取り入れる利用校に対し、少しでも事故やけがの発生リスクを減らすよう「安全指導チェックカード」を活用するようさらに、呼びかけていきます。活動前、児童への安全指導を行っていますが、実施中の巡回を充実させ、学校職員へ適宜助言をしていくことも必要であると考えています。リスクマネジメントについて、学校職員・帯同救急員・指導補助員との共通理解を図り、安全指導を行っていくつもりです。

また、自由時間(特に芝生広場での発生)のけがが多くみられました。児童は、自由時間ということで緊張感が緩むこともあります。学校職員に対して、自由時間の過ごし方について指導することの大切さを伝え、指導者の子どもたちへの安全管理体制の意識を高める必要があります。

No.	場所名	件数	割合(%)	受診件数
1	野外キッチン	28	15.6	3
2	きつね入口横フィールド	28	15.6	5
3	大屋根広場	27	15.0	3
4	生活棟	24	13.3	1
5	工作室及びその周辺	15	8.3	2
6	施設内道(階段を含む)	12	6.7	3
7	芝生広場	5	2.8	2
8	施設内	4	2.2	0
9	食堂	3	1.7	1
10	施設内山道	3	1.7	1
11	朝来山	3	1.7	0
12	竹田城跡付近	3	1.7	0
13	ファイヤー場	2	1.1	1
14	ヒメハナ公園	2	1.1	1
15	与布土地区	2	1.1	0
16	円山川公苑	2	1.1	1
17	浴室棟	1	0.6	0
18	常設テント	1	0.6	0
19	自然観察館及びその周辺	1	0.6	0
20	不明	14	7.8	5
合計		180	100.0	29